



おうちで田んぼ



たねからお米をそだててみましょう！

～稲刈り編（防鳥編）～

こんにちは。すっかり秋もふかまりました。千葉 馬来田のくすのき田んぼも稲刈り脱穀と続けて行うことができました。

「おうちで田んぼ」も中盤。稲刈りです。「お米」ができあがるまでもうすぐです。

今回も、たのしみながら家族で「お米づくり」に挑戦してくださいね♪



事務局“こめたいちょう”の
神田浩行も応援します！

たねからお米をそだてるながれ

- 1 たねを眠りから覚ましましょう ～浸種・発芽～
- 2 苗をそだてましょう ～育苗～
- 3 お引っ越ししましょう ～田植え～
- 4 水をやりましょう ～水やり／防鳥～
- 5 収穫しましょう ～いねかり～
- 6 乾かしましょう ～天日干し～
- 7 もみをとりましょう ～脱穀～
- 8 春をむかえる準備をしましょう ～種取り～
- 9 皮むきしましょう ～もみすり～
- 10 いよいよたべましょう ～玄米～
- 11 わらで正月をむかえましょう ～わら細工～



今回は「5 収穫しましょう～いねかり～ 6 乾かしましょう～天日干し～」です。

5 収穫しましょう～いねかり～

“カマ”でも“ハサミ”で稲刈りできます

稲刈りをするタイミングは稲穂の色で判断します。全体的に黄色が来てきたら稲刈りできる時期です。

稲を刈る道具には鎌（カマ）かハサミのどちらでもかまいません。本来はカマですが、使い慣れているハサミでも刈ることが出来ます。カマを使うのであれば、親御さんも一緒にもってやるようにしましょう。

準備 : カマ（歯がギザギザのものでもよい）またはハサミ

1) しっかり稲穂をみてあげてください。ここまで大きくなった「稲のいのち」を感じてほしいです。

2) 稲穂の一番下地面の上あたりを切ります。

3) 茎をおさえながら切ります。（写真参照）

4) 稲以外の植物もみられたら切って観察してみてください。

形や大きさなど稲との違いも楽しめたらいいですね。

5) 刈り終わった株をみて何本の稲がついていたか数えてみてください。3本から5本で植えたはずが、もっと増えているかもしれません。稲は株分け（分けつといいます）して増えていきます。多い時は15～20本になるときもあります。

6) 刈った稲は束ねてヒモで結びます。半分より根本に近いところで結んで下さい。



6 乾かしましょう～天日干し～

稲はお日様の力でほします。

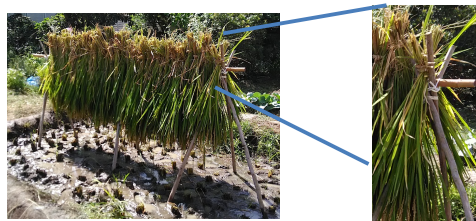
1) 干す場所はおうちの庭、ベランダ、日のあたる窓辺など、お日様があたるところにほします。

2) 右写真のように穂を下にしてぶら下げます。スズメを避けるために網を巻きます。（細かい編み目のもの）

写真下は、今年某保育園さんの稲刈り後の乾燥の様子です。

束ねた稲を二つに広げて横棒の上から掛けます（私は「ハザ掛け」とよんでいます。地方によって呼び方が違うようです）。

3) このまま天気がよければ 10 日程度。悪い日があれば 2 週間程度干して下さい。



穂を下に向けるのは、穂の栄養分が下に集まるから、まっすぐなワラになるから、など諸説あります。くすのき田んぼでは「地干し」という穂を上にして立てかけるように干してます。（ハザ掛けだと落下や倒壊してもすぐに直せないためです。）

次は、脱穀～粳すりで、いよいよお米がとれます。あともう少しです！